

医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	覚醒下手術における覚醒の遷延, 不十分な覚醒に關与する因子
研究責任者	【研究責任者】聖隷浜松病院 リハビリテーション部 新美 恵子 【研究分担者】聖隷浜松病院 てんかんセンター 藤本 礼尚
研究実施体制	解析およびデータ収集(藤本・新美) 単一施設、後方視
研究期間	臨床研究審査委員会承認日 ~ 2025年3月
対象者	2010年4月から2024年10月までに覚醒下手術で言語および運動機能を評価した症例
研究の意義・目的	覚醒下手術は重要な脳機能野の近傍に存在するてんかん焦点や脳腫瘍を、術中覚醒状態で脳機能を確認しながら安全且つ最大限に摘出する手術方法である。執刀する脳神経外科医、麻酔科医、高次脳機能および運動機能を評価するリハビリテーションセラピスト、臨床工学技士、看護師がチームで取り組む。リハビリテーションセラピストは事前に患者と術中課題のリハールを重ね手術に臨むが、術中の覚醒状態には個人差があり、十分な覚醒が得られない中で高い精度での評価は困難を極める。そこで過去の覚醒下手術例から術中の覚醒に關与する要因を明らかにし、覚醒遷延の可能性を事前に予測して対処できることを目的とする。
研究の方法	【方法】当院で覚醒下手術を実施した症例において、麻酔効果に影響を及ぼす可能性のある因子(麻酔導入から投与中止までの手術時間、切除予定脳葉、併存疾患、年齢、身長、体重、BMI、腎機能、肝機能、内服薬、全身麻酔薬の投与量、局所麻酔薬の投与量、鎮痛薬の追加有無など)が、麻酔投与中止から術中課題が術前とほぼ同等に実施できる覚醒状態となるまでの時間との関連性を調べる。 【選択基準】覚醒下手術で言語機能および運動機能を評価した症例 【除外基準】術中のビデオ録画記録の無い症例 【予定症例数】15例程度 【症例数の設定根拠】2010年4月から2024年10月までの覚醒下手術症例
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 リハビリテーション部 新美 恵子 TEL:053-474-2222(代表) リハビリテーション部 9:00~17:00 平日

